

すめらみこと、いかづちをか
天皇、雷の岳に出でます時に、
かきのもとのおそみひとまる
柿本朝臣人麻呂の作る歌一首

二三五番

おほきみ
大君は 神にしませば 天雲の 雷の上に 廬
りせるかも

すめらみこと
天皇、志斐姫に賜ふ御歌一首

二三六番

いな
否と言へど 強ふる志斐のが 強ひ語り このこ
ろ聞かずに 朕恋ひにけり

しひのおみな
志斐姫の和へ奉る歌一首

二三七番

いな
否と言へど 語れ語れと 詔らせこそ 志斐いは
奏せ 強ひ語りと言ふ

ながのいみきおきまろ
長忌寸奥麻呂、
みことのり
詔に應ふる歌一首

二三八番

おほみや
大宮の 内まで聞こゆ 網引すと 網子ととのふ
る 海人の呼び声